

THE
POETRY OF
INSECTS

Loving
the Voices of
Fleeting Lives

26 June, 2022

-11 June, 2023

Lafcadio Hearn
Memorial Museum

「イラスト出典」
「虫の音楽家」異国風物と回顧（1898年所収）
「蟬」影（1900年所収）
「蛾鬼」骨董（1902年所収）

2022
6.26日 ↓ 2023
6.11日

開館時間 4月9日 8時30分 - 18時30分（受付終了18時10分）

10月3日 8時30分 - 17時（受付終了16時40分） 年中無休

入館料 「大人」410円（団体320円 / 記念館・旧居2館共通券560円）

「小中学生」200円（団体160円 / 記念館・旧居2館共通券280円）

主催 小泉八雲記念館

共催 松江市、山陰中央新報社

協力 慶應義塾図書館、富山大学附属図書館、

松江市立中央図書館、兵庫県立人と自然の博物館

八雲会、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、

日本経済新聞社松江支局、産経新聞社、共同通信社松江支局、

時事通信社松江支局、中国新聞社、島根日日新聞社、

NHK松江放送局、TBSKさんいん中央テレビ、BSS山陰放送、

日本海テレビ、山陰ケーブルビジョン、エフエム山陰、エフエムいづも

虫 の詩

かそけき

もののもの

声音を

愛す



八雲愛用の虫籠（日輪）
小泉八雲記念館蔵



Lafcadio Hearn
Memorial Museum

小泉八雲記念館

〒690-0872 鳥根県松江市奥谷町322

【電話】0852-21-2147 【ファックス】0852-21-2156

最新情報は
ウェブサイト、SNSで
www.hearn-museum-natsue.jp



虫

小泉八雲

を愛した作家

一寸の虫にも五分の魂

——日本のことわざ

〔草雲雀〕〔骨董〕より

〔蟬の挿画〕より「アブラゼミ」
小泉 雄装幀
慶應義塾図書館画像提供



八雲が所蔵した「虫」に関する書籍
ファーブル『インセクト・ライフ』ほか
富山大学附属図書館蔵

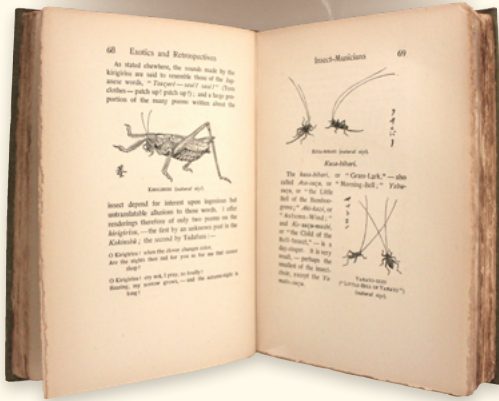


錦絵「俳優見立夏商人（虫売り）」 初代歌川国貞（三代目歌川豊国）
国立歴史民俗博物館画像提供



晩年の八雲
小泉家蔵

「フカディオ・ハーン（小泉八雲）は虫を愛した作家でした。ファーブルを愛読し、美しい竹細工の虫籠に松虫や鈴虫、草ひばりなどを飼い、その声音に耳を傾けました。また、日本の古い詩歌をたくさん拾い集め作品の中に紡ぎました。「一寸の虫にも五分の魂」を見出す日本人の心情や自然観、あるいは虫への愛着心を、共感とともに西洋の読者に伝えたいのです。●本展では、あるがままの自然を受け入れ、虫や蛙の中にも「美」を見出してきた日本人の心に光をあててみたいと思います。ハーンがいう「古き良き日本に宿る幸福感とやさしさ」が、現代を生きる私たちに生きる上でのヒントを与えてくれるかもしれません。」



『影』校正シート 小泉 雄装幀
慶應義塾図書館画像提供



『虫の音楽家』よりイラスト
『異国風物と回顧』（1898年）所収
小泉八雲記念館蔵

イベント情報

オープニング

★フロアトーク

6.26〔日〕 10:00、13:00、15:00

★八雲のバースデー・サプライズ

6.26〔日〕、27〔月〕

レクチャー 会場&オンライン

★河南堂珍元齋の鳴く虫講談

7.30〔土〕 講師 河南堂珍元齋氏

★一寸の虫にも五分の魂

虫の魂を見つめる作家、八雲

9.11〔日〕 講師 小泉凡館長

詳細・最新情報は
ウェブサイト、SNS でチェック！
www.heam-museum-matsue.jp

子どもワークショップ

★[アートで遊ぼう] カラフルに夢虫!

自分だけの虫! どんな声で鳴く?

8.9〔火〕 講師 福井一尊氏

★[音で遊ぼう] Ryoさんと虫の鳴き声合戦!

9.3〔土〕 講師 渡辺亮氏

★[絵を描こう] Ryoさんとコワかわいい妖怪たち!

9.4〔日〕 講師 渡辺亮氏

演奏会

★旧居ニテ 虫ノ声音ニ 耳ヲ澄マス

10.8〔土〕 出演 X [iksa] (イクサ) — バイオリン + ハープ

10.22〔土〕 出演 米山麻美氏 — 足踏みオルガン (明治・大正)

落語

★小泉八雲記念館寄席 柳家さん喬が語る八雲 Vol.5

10.1〔土〕 出演 柳家さん喬 師匠

〔JR松江駅から〕◎ぐるっと松江レクリンバス約16分「小泉八雲記念館前」下車 ◎路線バス約14分「塩見繩手」下車、徒歩5分 ◎路線バス約20分「塩見繩手入口」下車、徒歩1分
〔一畑電車松江しんじ湖温泉駅から〕◎徒歩約20分 専用駐車場はございませんので、最寄りの駐車場をご利用下さい。



『イラスト出典』『蟬』影（1900年）所収
『蜻蛉』日本雑記（1901年）所収